こんな仕事あるんだ！

児童・生徒 各地で職業体験

高松で働く喜び感じて

職人と対話、製作挑戦も

小中学生を対象にした職業体験イベント「ゆめマルシェたかまつ」が24日、高松市林町のサンメッセ香川で開かれた。市消防局や石材店、建具店、ホテル、漫画塾など12社・団体がブースを設け、子どもたちは会場を巡って仕事のやりがいや苦労を聞いたり、箸置きや時計作りを体験したりして憧れの職業に親しんだ。

●サンメッセ



庵治石を磨いて箸置き作りに取り組む子どもたち＝高松市林町、サンメッセ香川

児童生徒に市内で活躍する人との対話を通じて市への愛着を育むとともに、高松で働くことの魅力を感じてもらおうと、市教委が初めて企画。小中学生約220人と保護者が参加した。

庵治石の採掘や加工販売を行っている石材商太元屋（同市牟礼町）のブースでは、代表取締役の和泉憲さん(58)が硬くて水を吸いにくい庵治石の特徴や、かつては約9割が墓石に使われていたが、現在は建築やインテリアにも活用されていることを説明。参加者は砥石を水に漬けて庵治石を磨いて自分だけの箸置き作りに取り組み、「花こう岩のダイヤモンド」と称される庵治石の魅力に触れた。



組子の技術を使って卓上時計作りに挑戦するブースも

県の伝統的工芸品「組手障子」を手がける森本建具店（同市三谷町）のブースでは、参加者が組子で亀の甲羅の模様を表現する「角亀甲」と呼ばれる技術を使い、卓上時計作りに挑戦。参加者は県の伝統工芸士の森本隆さん(63)から「木を削る時には0・1ミリの誤差も許されない。繊細で緻密な気の緩まない作業」などと職人の苦労を教わり、真剣な表情で聞き入っていた。

このほか、浴衣の着付けやメークの体験なども来場者の人気を集めていた。国分寺北部小6年の谷本康樹さん(11)は「庵治石を磨くと、こんなにキラキラ光ることは知らなかった」と目を輝かせた。古高松小3年の田川泰成さん(9)は「組子は難しかったけど、上手にできたので部屋に飾りたい」と笑顔で話していた。